

令和6年度

くまもと売れる米づくり
推進計画書



第12回未来に伝えたい農業・農村の風影 フォトコンテスト
JAグループ熊本賞「夕陽、育む」

くまもと売れる米づくり推進本部

目 次

はじめに	1
1. 基本方針	2
2. 生産対策	2
(1) 需要に応じた計画生産による米づくり	2
(2) 地域特性を活かした特色ある米づくり	2
(3) 県産JA米の信頼の確保	3
(4) 栽培技術向上対策	3
3. 集荷対策	3
(1) 計画生産による出荷契約の推進と履行	3
(2) 系統集荷向上対策の実施	3
(3) 関係法令の周知徹底	3
(4) 集出荷施設における品質事故防止対策等の強化	3
(5) 仕分け集荷対策	4
4. 販売促進対策	4
(1) 「くまさんの輝き」の認知度向上	4
(2) 大消費地での販売強化	4
(3) メディアやSNS、公共交通機関等を活用した 県産JA米の情報発信	4
(4) 販売促進キャンペーンやイベント等による 県産JA米の認知度向上と販売促進	4
(5) くまモン・お米やんを活用した販促グッズの作成・活用	4
(6) 関係部署と連携した輸出促進	4
5. 食育・消費拡大対策	5
〈参考資料〉	
主力品種生産・販売計画	6
熊本県産米価格の推移	7
水稲主要品種作付地域区分	8
令和5年産水稲地域別・品種別作付面積	9
水稲うるち玄米熊本県内銘柄別等級比率	10
令和5年産水稲の収穫量（熊本）	11
令和5年産水稲の都道府県別作況指数	13
令和5年産水稲の市町村別面積・収穫量	14
令和5年産水稲全国都道府県別順位	15
水稲累計統計（熊本）	16

はじめに

全国の令和5年産水稲の作付面積（子実用）は134万4,000haで、前年産に比べ1万1,000ha減少、うち主食用作付面積は124万2,000haで、前年産に比べ9,000ha減少した。

作柄は北陸、東海及び近畿は、田植期以降の日照不足等に加え、7～8月の少雨や7月以降の記録的な高温の影響があったことから平年を下回る一方、その他の地域はおおむね天候に恵まれた。

全国の10a当たりの収量（子実用）は533kg（作況指数101）と前年産より3kg減少し、収穫量（子実用）は716万5,000t（前年差▲10万4,000t）となり、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は661万tで、前年産に比べ9万1,000t減少した。

熊本県における令和5年産水稲の作付面積（子実用）は3万haで、前年産に比べ1,300ha減少した。うち主食用作付面積は2万8,900haで、前年産に比べ1,300ha減少した。

水稲の10a当たり収量は、518kg（作況指数104）と前年産に比べ17kg増加となった。

これは、分けつ期の6月下旬から7月上旬が平年に比べ日照不足で推移し、分けつが抑制され穂数が「やや少ない」となったものの、7月下旬から8月中旬に日照時間が確保され1穂当たりもみ数が「やや多い」ことにより、全もみ数は「平年並み」となり、9月以降、おおむね天候に恵まれ、登熟が「良」となったためである。

この結果、収穫量（子実用）は15万5,400t（前年産に比べ1,400t減少）となった。また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は14万9,700t（前年産に比べ1,600t減少）となった。

昨今、気候変動等による世界的な食料生産の不安定化や、ウクライナ等の海外情勢が変化し「食料安全保障」の重要性が増している。併せて、環境への負荷が食料システムの持続可能性に対する脅威になりつつあり、「みどりの食料システム戦略」に基づく取組みを強力に進める必要がある。

一方で、主食用米の需要量は、一人当たりの消費量や人口減少等の影響で毎年約10万t程度減少すると見込まれており、需要に応じた生産・販売に取組み、米の食育運動や消費拡大促進と併せて、新たな市場のニーズ・トレンドに則した販売戦略の策定、販売促進が必要となっている。

1. 基本方針

- (1) 県産 J A 米の信頼確保と地域特性を活かした良食味米づくり等の「生産対策」
- (2) 実需者への安定供給による再生産価格の確保のための「集荷対策」
- (3) 県産 J A 米の認知度向上と販売促進に向けた「販売促進対策」
- (4) 日本型食生活の普及拡大に向けた「食育・消費拡大対策」

2. 生産対策

全国的に新たな銘柄米が誕生し、産地間競争は年々激化していることから、県産 J A 米の安全・安心の確保はもとより、みどりの食料システム戦略を踏まえた、「熊本県推奨うまい米基準」に基づく高品質・良食味米生産や地域特性を活かした特色ある米づくり、多収・低コスト栽培技術を取り入れた業務用米産地づくりを推進し、需要に応じた生産体制の構築による生産者の所得向上に取り組む。

また、生産性向上に向けた普通作指導力強化の取組みを通じ、食味ランキング特 A 評価の獲得を目指す。

(1) 需要に応じた計画生産による米づくり

① 需要に応じた生産推進

卸や実需者のニーズに応える米を安定的に供給し、県産 J A 米の有利販売につなげるため、県や関係団体と連携し、需要に応じた主食用米の生産を推進する。

② 実需者ニーズに基づいた生産体制の確立

農家・J A と取引先・販売店との意見交換等により、実需者ニーズを把握し、ニーズに基づいた生産体制を構築する。

(2) 地域特性を活かした特色ある米づくり

① くまさんの輝きを中心とした良食味ブランド米づくり

「熊本県推奨うまい米基準」に基づき、県産米戦略プロジェクトチームや関係団体と連携し、作付け要件の緩和により作付面積が拡大する「くまさんの輝き」をはじめ、熊本県産米の良食味米生産を支援するとともに、(一財)日本穀物検定協会の「食味ランキング」で“特 A”獲得に取り組む。

② 高付加価値米づくり

地域特性を活かした特別栽培米、酒造好適米等を推進する。

③ 多収性品種の普及

安定多収生産技術の確立と省力・低コスト技術の導入や団地化等の効率的な生産を推進する。

(3) 県産 J A 米の信頼の確保

- ① 栽培基準に基づく J A 米の推進
- ② 残留農薬検査・DNA 鑑定等の実施
- ③ 生産者毎のサンプル保管と検査結果等の開示
- ④ 農産物検査技術の向上と検査員の確保

(4) 栽培技術向上対策

- ① 栽培技術向上に向けた講習会の開催
- ② 現地検討会の開催
- ③ 優良産地研修の実施

3. 集荷対策

米産地としての信頼性を高め、価格安定につなげるために、関係法令の順守や共乾施設での品質事故防止対策を強化するとともに、J Aグループが一丸となり、需要や契約に基づいた集荷に取り組む。

(1) 計画生産による出荷契約の推進と履行

- ① 出荷契約
米の価格安定のため、出荷契約の積上げと契約に基づく集荷を推進する
- ② 複数年契約
実需者の要望に基づく複数年契約を推進する。

(2) 系統集荷向上対策の実施

- ① くまもと売れる米づくり推進大会の実施
- ② 集荷体制の整備
集荷目標の必達に向けて、くまもと売れる米づくり地域本部、J Aグループ熊本集荷対策プロジェクトチームの活動を強化する。
- ③ J A 出荷米の明確化
J A が取扱う米穀と、J A 以外の米穀との区別を明確にするため、「J A 出荷米専用袋」並びに「J A 米刻印」の管理を徹底し、J A が取扱う米の差別化を図る。
- ④ 多様な集荷手法の展開
出荷契約による共同計算の委託集荷や多様化する担い手・法人への集荷対策等に取り組む。

(3) 関係法令の周知徹底

座談会等各種会議を通じて、生産者・J A に対し、米トレーサビリティ法等の関係法令を周知する。

(4) 集出荷施設における品質事故防止対策等の強化

- ① 農業倉庫での保管・管理の徹底
- ② 農業倉庫や共乾施設での事故防止対策と環境整備への取組強化
- ③ C E 運営管理・環境整備コンクール開催を通じた施設運営体制の強化

(5) 仕分け集荷対策

県産JA米のブランド力向上のために、「熊本県推奨うまい米基準」に基づいた仕分け集荷を推進する。

4. 販売促進対策

熊本県のリーディング品種である「くまさんの輝き」や統一米袋の広告宣伝活動を強化し、県産JA米のブランド力向上に努める。

また、イベント・試食販売会の開催やマスメディア・SNSによるPR、販促資材等を活用した宣伝活動等により、県産JA米の認知度向上と販売促進に取り組む。

さらに、海外企業の県内への進出やコロナ禍からの観光需要の回復、核家族化等による消費形態の多様化などを背景とする、需要の変化に対応した販売促進に取り組む。

(1) 「くまさんの輝き」の認知度向上

- ① 「くまさんの輝き」のイベントや広報活動の実施
- ② 試食販売会やメディアを活用した認知度向上
- ③ テレビCMの年間放送による認知度向上

(2) 大消費地での販売強化

- ① 大消費地（首都圏や関西地区等）での県産JA米の広告宣伝活動の実施
- ② 産地と消費地との交流会の実施

(3) メディアやSNS、公共交通機関等を活用した県産JA米の情報発信

- ① メディアを活用した情報発信
 - ・ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等による情報発信
 - ・ 大型施設等での広告掲載による情報発信
 - ・ ラッピングバスによる情報発信
- ② SNSを活用した情報発信
 - ・ ホームページやインスタグラム等を活用した情報発信
 - ・ LINE等を活用したキャンペーンの実施

(4) 販売促進キャンペーンやイベント等による県産JA米の認知度向上と販売促進

- ① 新米キャンペーン等による県産米のPR
- ② イベント出展による県産米のPR
- ③ 訪日外国人に向けた県産米のPR

(5) くまモン・お米やんを活用した販促グッズの作成・活用

(6) 関係部署と連携した輸出促進

5. 食育・消費拡大対策

農業に対する理解促進と日本型食生活の普及拡大のため、小学生や中学生等の子供たちを対象とした食農教育や米飯学校給食の推進、「お弁当の日」等、主食である米の消費拡大につながる活動を強化する。また、子ども食堂やフードバンク等の生活支援団体との連携による地域活動にも取り組む。

- (1) 地域本部におけるアグリキッズスクール・稲作体験の支援
- (2) 地場農産物を取り入れた米飯学校給食の推進や地産地消の取組強化
- (3) ご飯食「お弁当の日」の実践と普及・推進
- (4) くまもと農業フェアへの参画
- (5) 小・中学生を対象とした「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの開催支援
- (6) 農業の多面的機能等をPRするTVの制作・放映への協賛
- (7) マスメディアの有効活用
- (8) 子ども食堂やフードバンク等の生活支援団体との連携・推進

〈参考資料〉

主力品種生産・販売計画

品 種	生 産 ・ 販 売 計 画
くまさんの輝き	<p>開発に15年の歳月をかけ、平成30年に本格デビューした期待の品種。 28年産米、29年産米食味ランキングでは参考品種ながら2年連続特A評価（県北）を獲得しており、おいしさ・作りやすさ・高い品質により、熊本県産米を牽引するリーディング品種として取扱いが年々拡大し、令和6年産では3,000haを超える見込み。 県民に愛されるお米を目指し、「熊本県推奨うまい米基準」にも取組み、消費者や生産者への認知度向上やイメージアップに取組む。</p>
コシヒカリ	<p>全国的なブランド品種で、産地の特性を活かした特別栽培米及びグリーン農業による生産・販売に取組む。 早期米：天草地区を中心に特別栽培米に取組み、県産米の先陣を切った早期販売に取組む。 普通期米：阿蘇地区を中心に特別栽培米に取組み、収量性の向上と良食味米向上対策に取組む。</p>
ヒノヒカリ	<p>西日本で広く生産されており、品質・食味が安定していることから、業務用・家庭用として幅広い需要がある。 過去には11年連続で特A評価（城北・県北）を獲得するなど、県産ヒノヒカリは高い評価を得ている。 JAグループ統一精米袋商品「三度のときめき」を中心に取組みを展開する。</p>
森のくまさん	<p>熊本県独自の良食味品種であり、食味ランキング（24年産米）において最高得点で特A評価（県北）を獲得した実績がある。品質・食味向上対策に取組み、令和5年産では特A評価（県北）を獲得した。近年は県外においても一定の認知度を得ている。 JAグループ統一精米袋商品「森のくまさん」を中心に取組みを展開する。</p>
くまさんの力	<p>熊本県独自の良食味・耐暑性品種。 熊本市を中心に栽培がされており、学校給食にも採用されている。</p>
酒造好適米	<p>県オリジナル品種「華錦」を中心に契約栽培に取組み、県内需要者とのつながりを強化し計画的な販売を進める。</p>
もち米	<p>ヒヨクモチを中心に、もち米団地栽培に取組み品質向上に努め、播種前契約栽培や複数年契約栽培による安定販売を進める。</p>

熊本県産米価格の推移

(単位：円)

	コシヒカリ	ヒノヒカリ	森のくまさん	作況指数
平成7年	20,284	19,343	-	106
平成8年	19,552	18,571	-	104
平成9年	17,470	16,664	-	100
平成10年	18,858	17,367	-	104
平成11年	17,347	16,411	16,347	81
平成12年	16,215	15,331	15,341	102
平成13年	16,323	15,300	15,305	103
平成14年	16,407	14,678	14,680	103
平成15年	22,056	18,799	18,708	96
平成16年	16,334	-	15,007	77
平成17年	15,695	14,439	14,403	93
平成18年	15,709	15,006	15,024	85
平成19年	14,868	13,741	13,625	100
平成20年	15,443	14,603	14,785	101
平成21年	14,726	14,105	13,957	100
平成22年	13,101	12,090	11,863	99
平成23年	16,245	15,059	15,273	101
平成24年	17,930	16,715	16,553	97
平成25年	15,249	14,612	15,039	97
平成26年	13,534	12,465	12,797	97
平成27年	14,793	13,659	14,386	97
平成28年	15,767	14,278	14,518	102
平成29年	15,521	14,876	14,514	102
平成30年	15,700	15,165	14,932	103
令和元年	16,000	15,380	15,399	94
令和2年	16,257	15,410	15,056	89
令和3年	15,088	13,235	13,199	97
令和4年	13,791	12,822	12,465	96
令和5年	15,206	14,809	-	104

※価格には運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米価格

※平成15年産米までは自主流通米の入札結果

※平成16年産米ヒノヒカリは、上場なし

※平成18年産米については、8月から19年10月までの加重平均

※平成19年産米については、8月から20年10月までの加重平均

※平成20年産米については、契約開始月から21年10月までの加重平均

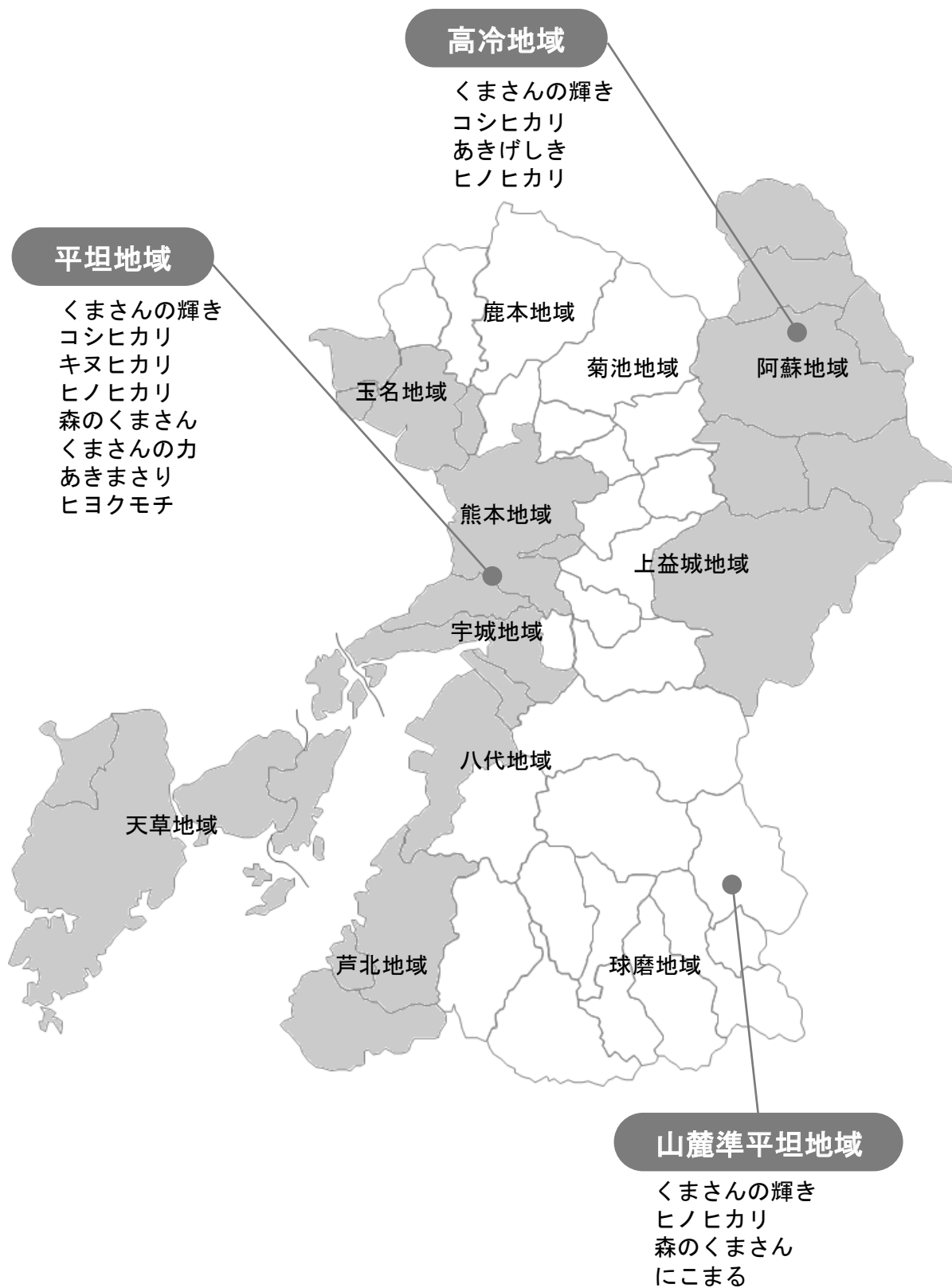
※平成21年産米～平成24年産米については契約開始月から翌年10月までの加重平均

※平成25～令和4年産米については出回りから翌年の10月までの平均価格

※令和5年産米については出回りから翌年の5月までの平均価格

※「-」については取引数量が100トン未満であり、公表を行っていないもの

水稻主要品種作付地域区分



令和5年産水稻地域別・品種別作付面積

R 6.4.8作成
(単位：ha)

品種名	熊本	宇城	玉名	鹿本	菊池	阿蘇	上益城	八代	芦北	球磨	天草	計	品種構成%
コシヒカリ	1	84	1	1	1	2,048	59	13	2	35	934	3,179	10.6
構成比	0%	3%	0%	0%	0%	64%	2%	0%	0%	1%	29%	100%	
キヌヒカリ	21	12	149	0	0	1	0	712	0	0	11	907	3.0
構成比	2%	1%	16%	0%	0%	0%	0%	78%	0%	0%	1%	100%	
あきげしき	0	0	0	0	3	735	172	0	0	4	0	916	3.1
構成比	0%	0%	0%	0%	0%	80%	19%	0%	0%	0%	0%	100%	
ヒノヒカリ	842	705	2,395	982	1,572	370	1,996	1,350	447	1,887	263	12,810	42.7
構成比	7%	6%	19%	8%	12%	3%	16%	11%	3%	15%	2%	100%	
森のくまさん	877	1,409	515	254	3	124	139	315	11	15	16	3,679	12.3
構成比	24%	38%	14%	7%	0%	3%	4%	9%	0%	0%	0%	100%	
くまさんの力	522	2	3	0	0	0	3	137	7	0	9	682	2.3
構成比	76%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	1%	0%	1%	100%	
くまさんの輝き	437	13	76	652	243	64	503	294	77	532	19	2,910	9.7
構成比	15%	0%	3%	22%	8%	2%	17%	10%	3%	18%	1%	100%	
あきまさり	235	113	75	16	0	0	1	30	1	1	0	472	1.6
構成比	50%	24%	16%	3%	0%	0%	0%	6%	0%	0%	0%	100%	
やまだわら	4	0	74	0	0	75	1	34	0	17	0	205	0.7
構成比	2%	0%	36%	0%	0%	37%	0%	16%	0%	8%	0%	100%	
山田錦	0	0	21	0	0	7	5	0	1	9	0	43	0.1
構成比	0%	0%	48%	0%	0%	16%	12%	0%	3%	21%	0%	100%	
華錦	15	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	20	0.1
構成比	75%	0%	0%	0%	0%	11%	14%	0%	0%	0%	0%	100%	
その他うるち	79	19	129	13	35	264	85	477	11	413	37	1,562	5.2
構成比	5%	1%	8%	1%	2%	17%	5%	31%	1%	26%	2%	100%	
ミズホチカラ	33	7	82	132	2	0	5	3	0	14	0	278	0.9
構成比	12%	2%	30%	48%	1%	0%	2%	1%	0%	5%	0%	100%	
水稻うるち計	3,066	2,365	3,522	2,051	1,860	3,690	2,971	3,364	558	2,927	1,290	27,663	92.2
構成比	11%	9%	13%	7%	7%	13%	11%	12%	2%	11%	5%	100%	
ヒヨクモチ	924	42	369	58	31	5	19	668	8	19	5	2,147	7.2
構成比	43%	2%	17%	3%	1%	0%	1%	31%	0%	1%	0%	100%	
峰の雪もち	0	0	0	0	1	7	0	102	0	1	23	134	0.4
構成比	0%	0%	0%	0%	1%	6%	0%	76%	0%	0%	17%	100%	
その他もち	0	0	1	1	3	4	2	1	1	27	15	56	0.2
構成比	0%	0%	1%	2%	5%	8%	4%	2%	1%	49%	27%	100%	
水稻もち計	924	42	369	59	35	16	22	771	9	47	43	2,338	7.8
構成比	40%	2%	16%	3%	2%	1%	1%	33%	0%	2%	2%	100%	
水稻計	3,990	2,407	3,891	2,110	1,895	3,706	2,993	4,135	567	2,974	1,333	30,001	100.0
構成比	13%	8%	13%	7%	6%	12%	10%	14%	2%	10%	4%	100%	

注) 四捨五入やラウンドの関係で、合計と内訳が一致しない場合がある。 ※県水稻作付面積(子実用)公表値:30,000ha

注) 地域別水稻作付面積は農林水産統計による。(子実用:主食用米、加工用米、米粉用米、備蓄用米、種子用米の合計)

注) 作付面積は、令和5年産水稻の市町村別作付面積(農水省)に地域毎の品種別作付け割合を乗じて算出した。

注) 地域別品種別作付け割合は、<参考データ>を集計し、地域毎の品種割合を算出した。

注) 熊本の作付面積は旧富合・城南町及び旧植木町の作付面積を含み、旧蘇陽町は上益城に含まれる。

注) 今後、検査実績等により作付面積が修正されることがある。

<参考データ>

- ・熊本県農業共済組合水稻引受面積(支所別品種別)及び各地域営農計画書
- ・新規需要米取組面積(再生協議会別品種別新規需要米取組面積(申請結果))
- ・R5年度指定種子生産ほ場申請面積
- ・農産物検査結果

水稲うるち玄米熊本県内銘柄別等級比率

単位（検査数量：トン、等級：％）

年産	作況指数	銘柄	検査数量	1等級	2等級	3等級	規格外
令和 5年	104 (101)	コシヒカリ	7,556	51	46	3	0
		ヒノヒカリ	28,127	30	65	4	1
		森のくまさん	9,157	7	90	3	1
		くまさんの力	2,068	64	31	4	1
		くまさんの輝き	9,883	48	49	2	0
4年	96 (100)	コシヒカリ	7,978	63	31	4	2
		ヒノヒカリ	32,180	28	68	4	1
		森のくまさん	10,294	7	89	4	1
		くまさんの力	2,791	54	38	7	1
		くまさんの輝き	4,253	29	63	7	1
3年	97 (101)	コシヒカリ	8,645	53	40	5	2
		ヒノヒカリ	32,608	32	64	3	1
		森のくまさん	11,352	10	88	1	1
		くまさんの力	3,371	72	25	3	0
		くまさんの輝き	2,225	93	7	0	-
2年	89 (99)	コシヒカリ	7,951	70	27	2	1
		ヒノヒカリ	31,122	24	70	5	1
		森のくまさん	10,745	5	91	4	1
		くまさんの力	3,042	68	32	1	0
		くまさんの輝き	1,291	81	19	1	-
元年	94 (99)	コシヒカリ	7,989	42	50	7	1
		ヒノヒカリ	29,926	25	65	9	1
		森のくまさん	10,709	6	80	13	1
		くまさんの力	2,991	44	49	6	1
		くまさんの輝き	632	42	54	4	0
平成 30年	103 (98)	コシヒカリ	8,878	77	20	3	1
		ヒノヒカリ	36,320	34	64	2	0
		森のくまさん	12,437	11	87	2	0
		くまさんの力	3,470	61	37	1	0
		くまさんの輝き	456	81	19	0	0
29年	102 (100)	コシヒカリ	9,531	30	60	8	2
		ヒノヒカリ	33,879	38	59	3	1
		森のくまさん	12,678	13	86	1	0
		くまさんの力	3,466	71	28	1	0
28年	102 (103)	コシヒカリ	9,723	77	19	3	1
		ヒノヒカリ	37,245	27	70	2	1
		森のくまさん	14,480	10	88	2	1
		くまさんの力	3,501	63	33	4	1
27年	97 (101)	コシヒカリ	8,859	80	18	1	1
		ヒノヒカリ	37,586	56	43	1	1
		森のくまさん	15,148	28	71	1	1
		くまさんの力	3,970	75	23	1	1
26年	97 (101)	コシヒカリ	10,590	81	15	2	1
		ヒノヒカリ	36,678	51	48	1	1
		森のくまさん	10,381	45	54	1	0
		くまさんの力	4,008	73	25	2	0
25年	97 (102)	コシヒカリ	11,577	71	24	3	2
		ヒノヒカリ	41,769	42	55	2	1
		森のくまさん	12,840	7	92	1	1
		くまさんの力	4,584	82	17	1	0
24年	97 (102)	コシヒカリ	10,695	81	16	2	1
		ヒノヒカリ	41,194	43	55	1	0
		森のくまさん	13,319	5	94	1	0
		くまさんの力	3,720	73	25	1	0

(注1) 令和5年産は令和6年3月31日現在での数値である。

(注2) 作況指数の()は全国平均

(注3) 四捨五入の関係で等級比率が100%にならないことがある。

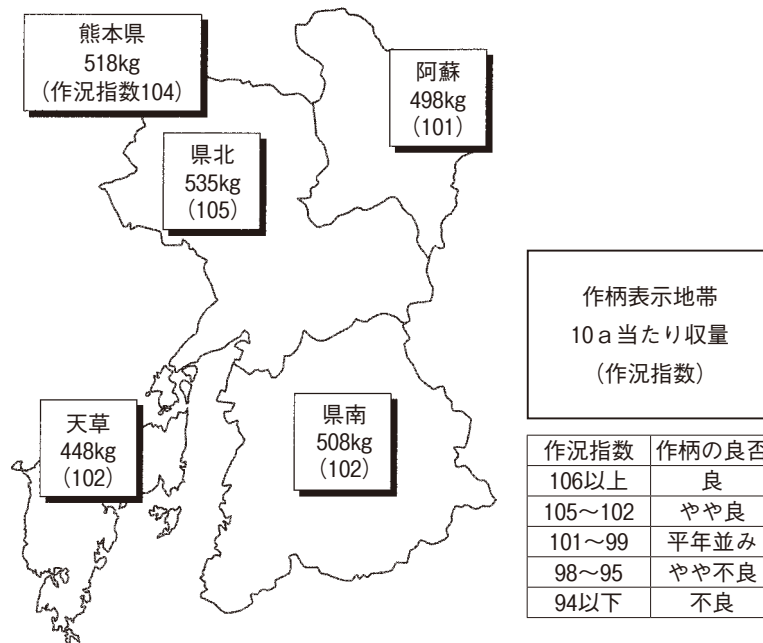
令和5年産水稻の収穫量（熊本）

水稻の10a当たり収量は518kg（作況指数104）
収穫量（子実用）は15万5,400t

【調査結果】（作柄概況）

- （1）熊本県における令和5年産水稻の作付面積（子実用）は3万haで、前年産に比べ1,300ha減した。うち主食用作付面積は2万8,900haで、前年産に比べ1,300ha減少した。
- （2）水稻の10a当たり収量は、518kg（前年産に比べ17kg増加）となった。
これは、分けつ期の6月下旬から7月上旬が平年に比べ日照不足で推移し、分けつが抑制され穂数が「やや少ない」となったものの、7月下旬から8月中旬に日照時間が確保され1穂当たりもみ数が「やや多い」ことにより、全もみ数は「平年並み」となり、9月以降、おおむね天候に恵まれ、登熟が「良」となったためである。
- （3）この結果、収穫量（子実用）は15万5,400t（前年産に比べ1,400t減少）となった。
また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は14万9,700t（前年産に比べ1,600t減少）となった。

図 水稻の作柄表示地帯別10a当たり収量



- 注：1 10a当たり収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 2 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、各県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合のふるい目幅（熊本県では1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 3 作柄表示地帯に包括される市町村については、P21の◎各県の作柄表示地帯に掲載している。

表1 令和5年産水陸稲の収穫

区分	作付面積 (ha)	10a当たり 収量 (kg)	10a当たり 平年収量 (kg)	作況指数	子実用収穫量 (t)
水陸稲計	30,000	518	513	104	155,400
水稲	30,000	518	513	104	155,400
陸稲	-	-	-	-	0

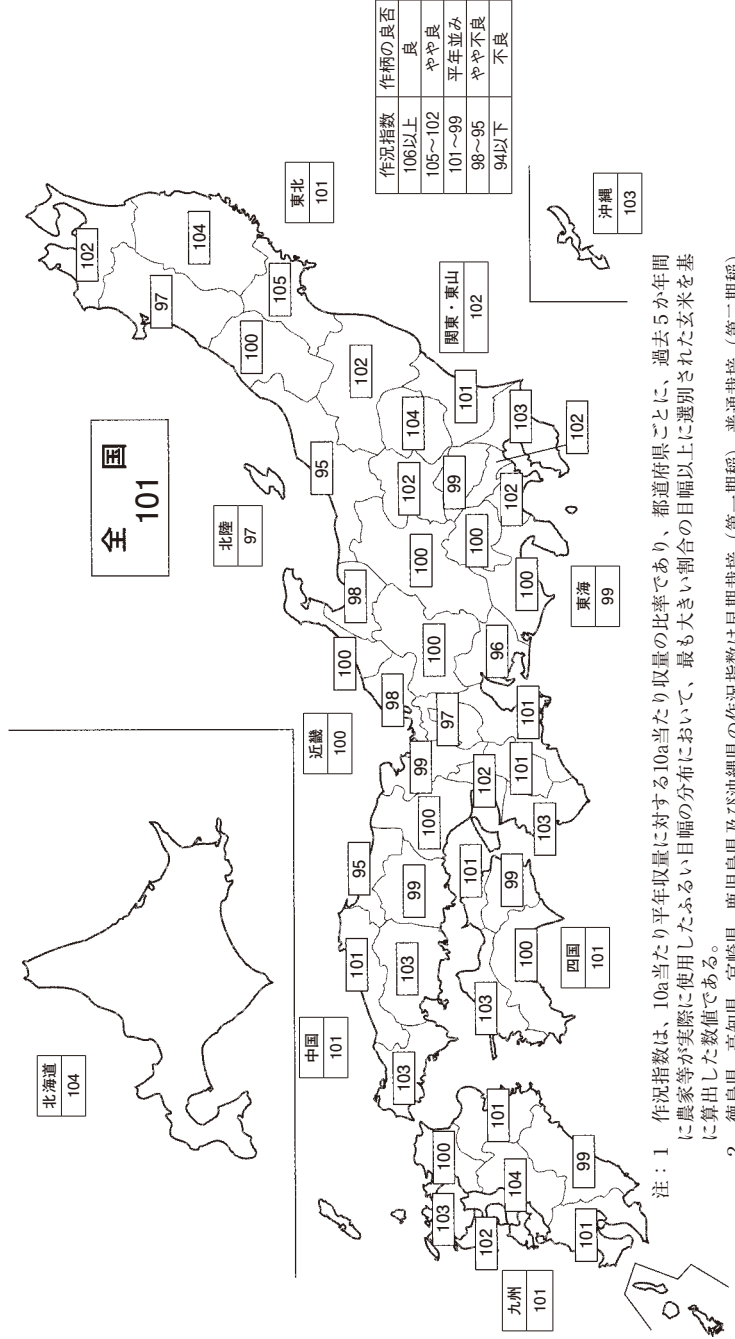
表2 水陸稲の作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移

年産	作付面積 (ha)	10a当たり 収量 (kg)	10a当たり 平年収量 (kg)	作況指数	収穫量 (t)
令和5年	30,000	518	513	104	155,400
4年	31,300	501	513	96	156,800
3年	32,300	484	513	97	156,300
2年	33,300	470	513	89	156,500
元年	33,300	483	513	94	160,800
平成30年	33,300	529	513	103	176,200
29年	33,300	527	513	102	175,500
28年	33,800	527	513	102	178,100
27年	35,600	500	515	97	178,000
26年	37,500	500	515	97	187,500
25年	38,400	502	515	97	192,800
24年	38,100	501	515	97	190,900
23年	37,900	519	515	101	193,600
22年	39,500	512	515	99	202,200
21年	39,700	515	515	100	204,500
20年	39,700	522	515	101	207,200
19年	41,000	513	515	100	210,300
18年	42,000	440	515	85	184,800
17年	42,700	479	515	93	204,100
16年	42,300	396	512	77	167,500
15年	40,900	491	511	96	200,400
14年	41,900	523	509	103	219,200
13年	42,800	522	505	103	223,000
12年	44,000	517	505	102	227,600
11年	45,000	407	500	81	182,800
10年	45,300	515	495	104	232,900

令和5年産水稻の都道府県別作況指数

【調査結果の概要】

- ア 令和5年産水稻の作付面積（子実用）は134万4,000ha（前年産に比べ1万1,000ha減少）となった。また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）となった。
- イ 水稻の全国農業地域別の10a当たり収量は、以下のとおりである。
- 北海道においては、田植期以降、おおむね天候に恵まれたことから、579kg（平年に比べ+18kg）となった。東北及び関東・東山においては、田植期以降、5月下旬から6月上旬にかけての日照不足の影響があったものの、その後の天候におおむね恵まれたことから、東北は569kg（平年に比べ+1kg）、関東・東山は544kg（同+5kg）となった。
- 中国、四国及び九州は、6月から7月にかけての梅雨前線等による大雨や日照不足の影響があったものの、その後の天候におおむね恵まれたことから、中国は514kg（平年に比べ△4kg）、四国は482kg（同±0kg）、九州は497kg（同△4kg）となった。
- 北陸、東海及び近畿は、田植期以降の日照不足等に加え、一部地域で7月から8月にかけての少雨や7月以降の記録的な高温の影響があったことから、北陸は513kg（平年に比べ△27kg）、東海は494kg（同△8kg）、近畿は503kg（同△5kg）となった。
- 沖縄は、台風の影響が見られたものの、その後の天候におおむね恵まれたことから、318kg（平年に比べ+9kg）と見込まれる。この結果、全国の10a当たり収量は533kg（平年に比べ△3kg）が見込まれる。
- ウ 以上の結果、収穫量（子実用）は716万5,000t（前年産に比べ10万4,000t減少）と見込まれる。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、661万t（前年産に比べ9万1,000t減少）と見込まれる。



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふり目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

令和5年産水稻の市町村別面積・収穫量

単位 } 作付面積：ha
10a当たり収量：kg
収 穫 量：t

		作付面積	10a当たり収量	収穫量			作付面積	10a当たり収量	収穫量
全 国		1,344,000	533	7,165,000	山鹿市		2,110	536	11,300
福 岡		32,800	480	157,400	菊池市郡	菊池市	1,520	533	8,090
佐 賀		22,200	521	115,700		合志市	222	524	1,160
長 崎		10,000	488	48,800		大津町	66	553	365
熊 本		30,000	518	155,400		菊陽町	87	551	479
大 分		18,300	491	89,900	市 郡 計	1,895	533	10,094	
宮 崎		14,700	486	71,400	阿蘇市郡	阿蘇市	1,920	499	9,590
鹿 児 島		17,200	485	83,400		南小国町	197	482	950
沖 縄		576	307	1,850		小国町	245	479	1,170
熊 本	平成15年	40,800	491	200,300		産山村	167	482	805
	16年	42,300	396	167,500		高森町	195	484	944
	17年	42,600	479	204,100		西原村	75	517	388
	18年	42,000	440	184,800	南阿蘇村	907	515	4,670	
	19年	41,000	513	210,300	市 郡 計	3,706	500	18,517	
	20年	39,700	522	207,200	上益城郡	御船町	508	546	2,770
	21年	39,700	515	204,500		嘉島町	198	556	1,100
	22年	39,500	512	202,200		益城町	764	545	4,160
	23年	37,900	519	196,700		甲佐町	373	534	1,990
	24年	38,100	501	190,900		山都町	1,150	493	5,670
25年	37,900	519	196,700	郡 計	2,993	524	15,690		
26年	37,500	500	187,500	八代市郡	八代市	3,740	519	19,400	
27年	35,600	500	178,000		氷川町	395	565	2,230	
28年	33,800	527	178,100		市 郡 計	4,135	523	21,630	
本	29年	33,300	527	175,500	芦北市郡	水俣市	132	467	616
	30年	33,300	529	176,200		芦北町	381	478	1,820
	令和元年	33,300	483	160,800		津奈木町	54	476	257
	2年	33,300	470	156,500		市 郡 計	567	475	2,693
	3年	32,300	484	156,300	球磨市郡	人吉市	395	486	1,920
4年	31,300	501	156,800	錦町		402	494	1,990	
5年	30,000	518	155,400	多良木町		592	495	2,930	
熊本市	3,990	542	21,600	湯前町		260	496	1,290	
下益城郡	宇土市	609	538	3,280		水上村	128	480	614
	宇城市	1,440	531	7,670		相良村	155	478	741
	美里町	358	486	1,740		五木村	5	380	19
	郡計	358	486	1,740	山江村	104	470	489	
玉名市郡	荒尾市	356	511	1,820	球磨村	44	445	196	
	玉名市	2,230	542	12,100	あさぎり町	889	503	4,470	
	玉東町	127	512	650	市 郡 計	2,974	493	14,659	
	南関町	387	513	1,990	天草市郡	上天草市	164	451	740
	長洲町	278	528	1,470		天草市	1,040	445	4,620
	和水町	513	503	2,580		苓北町	129	467	602
市郡計	3,891	530	20,610	市 郡 計	1,333	447	5,962		

令和5年産水稻全国都道府県別順位

順位	都道府県	作付面積 子実用(ha)	都道府県	10a当たり 収量(kg)	都道府県	収穫量 子実用(t)	都道府県	10a当たり 平年収量(kg)	都道府県	作況指数
	全国	1,344,000	全国	533	全国	7,165,000	全国	536	全国	101
1	新潟	115,800	青森	614	新潟	591,700	長野	619	宮城	105
2	北海道	93,300	長野	614	北海道	540,200	青森	603	北海道	104
3	秋田	83,000	山形	589	秋田	458,200	山形	598	栃木	104
4	山形	61,000	北海道	579	山形	359,300	秋田	577	岩手	104
5	宮城	60,900	宮城	566	宮城	344,700	北海道	561	熊本	104
6	茨城	59,700	福島	561	福島	327,600	福島	551	沖縄	104
7	福島	58,400	千葉	557	茨城	316,400	富山	547	千葉	103
8	栃木	51,400	栃木	553	栃木	284,200	山梨	547	広島	103
9	千葉	47,700	秋田	552	千葉	265,700	新潟	546	佐賀	103
10	岩手	45,200	岩手	551	岩手	249,100	千葉	544	山口	103
11	青森	40,500	山梨	542	青森	248,700	宮城	541	愛媛	103
12	富山	35,200	広島	535	長野	187,900	栃木	540	和歌山	103
13	兵庫	34,200	茨城	530	富山	185,900	岩手	540	青森	102
14	福岡	32,800	富山	528	兵庫	170,000	広島	528	福島	102
15	長野	30,600	佐賀	521	福岡	157,400	茨城	527	群馬	102
16	熊本	30,000	静岡	519	熊本	155,400	岡山	526	大阪	102
17	埼玉	28,400	熊本	518	岡山	142,900	石川	523	神奈川	102
18	滋賀	28,300	石川	518	滋賀	142,600	静岡	520	長崎	102
19	岡山	27,800	奈良	517	埼玉	137,500	福井	519	東京	102
20	愛知	25,800	島根	515	三重	126,300	佐賀	519	茨城	101
21	三重	25,200	岡山	514	愛知	123,800	滋賀	518	奈良	101
22	石川	23,400	新潟	511	石川	121,200	鳥取	514	島根	101
23	福井	23,300	山口	510	福井	116,500	熊本	513	三重	101
24	佐賀	22,200	和歌山	506	佐賀	115,700	奈良	513	大分	101
25	広島	21,100	愛媛	505	広島	112,900	島根	511	香川	101
26	岐阜	20,700	滋賀	504	岐阜	100,200	京都	510	鹿児島	101
27	大分	18,300	群馬	504	大分	89,900	愛知	507	長野	100
28	鹿児島	17,200	大阪	503	山口	87,200	山口	504	山形	100
29	山口	17,100	京都	502	鹿児島	83,400	兵庫	501	山梨	100
30	島根	16,100	三重	501	島根	82,900	三重	500	石川	100
31	静岡	15,100	福井	500	静岡	78,400	大分	499	静岡	100
32	宮崎	14,700	神奈川	499	宮崎	71,400	群馬	498	兵庫	100
33	群馬	13,900	兵庫	497	群馬	70,100	愛媛	498	福岡	100
34	京都	13,800	香川	496	京都	69,300	和歌山	497	岐阜	100
35	愛媛	12,800	大分	491	愛媛	64,600	福岡	496	高知	100
36	鳥取	11,900	長崎	488	鳥取	57,200	宮崎	496	岡山	99
37	高知	10,300	宮崎	486	香川	50,600	香川	496	京都	99
38	香川	10,200	鹿児島	485	長崎	48,800	大阪	495	宮崎	99
39	長崎	10,000	埼玉	484	高知	46,800	埼玉	494	埼玉	99
40	徳島	9,750	岐阜	484	徳島	45,700	神奈川	494	徳島	99
41	奈良	8,250	鳥取	481	奈良	42,700	岐阜	485	富山	98
42	和歌山	5,780	福岡	480	和歌山	29,200	鹿児島	485	福井	98
43	山梨	4,750	愛知	480	山梨	25,700	長崎	485	秋田	97
44	大阪	4,440	徳島	469	大阪	22,300	徳島	474	滋賀	97
45	神奈川	2,850	高知	454	神奈川	14,200	高知	456	愛知	96
46	沖縄	576	東京	419	沖縄	1,850	東京	414	新潟	95
47	東京	111	沖縄	321	東京	465	沖縄	309	鳥取	95

注：作付面積は、青刈り面積を除いた子実用の作付面積である。

水稻累計統計（熊本）

（単位：ha, kg, トン）

年次	作付面積	10a当たり収量	収穫量	作況指数	10a当たり平年収量	備考
昭和 32	75,400	336	253,400	93	360	大雨、台風2回
33	75,200	427	320,500	118	362	
34	76,000	402	305,700	111	361	
35	76,300	403	307,900	109	370	
36	76,700	387	297,000	102	381	
37	76,700	400	307,000	102	392	
38	76,200	416	317,300	105	396	
39	76,000	415	315,500	103	402	
40	76,300	412	314,400	101	407	
41	76,600	470	360,000	115	407	
42	77,600	486	377,100	119	407	
43	79,400	457	362,900	108	422	
44	79,900	469	374,700	105	447	
45	71,700	418	299,700	91	461	9月中旬以降寡照
46	66,700	416	277,500	90	463	台風19号
47	65,600	488	320,100	105	464	
48	67,100	462	310,000	100	464	
49	70,300	478	336,000	103	464	
50	41,900	501	360,200	108	464	
51	72,500	442	320,500	95	467	台風17号
52	72,300	492	355,700	105	467	
53	67,000	500	335,000	106	470	
54	64,600	491	317,200	104	473	
55	61,500	430	264,500	91	475	台風13、16号
56	58,900	505	297,400	106	475	
57	58,300	463	269,900	97	479	台風10、13、18、19号
58	58,900	475	279,800	99	479	
59	60,100	505	303,500	105	479	
60	61,100	487	297,600	101	481	
61	60,200	520	313,000	108	483	
62	54,800	462	253,200	95	486	風水害、日照不足
63	53,600	525	281,400	108	486	
平成 元	52,800	517	273,000	106	488	
2	52,200	497	259,400	101	492	
3	51,300	416	213,400	84	494	台風19号、生育期寡照
4	53,000	492	260,800	100	494	
5	53,500	378	202,200	77	494	長雨、低温、日照不足
6	56,600	570	322,600	115	494	
7	52,400	522	273,500	106	494	
8	49,200	512	251,900	104	494	
9	48,800	495	241,600	100	495	
10	45,200	515	232,800	104	495	
11	44,900	407	182,700	81	500	台風18号
12	44,000	517	227,500	102	505	
13	42,700	522	222,900	103	505	
14	41,900	523	219,100	103	509	
15	40,800	491	200,300	96	511	
16	42,300	396	167,500	77	512	台風16、18号
17	42,600	479	204,100	93	515	台風14号
18	42,000	440	184,800	85	515	台風13号
19	41,000	513	210,300	100	515	
20	39,700	522	207,200	101	515	
21	39,700	515	204,500	100	515	
22	39,500	512	202,200	99	515	
23	37,900	519	196,700	101	515	東日本大震災
24	38,100	501	190,900	97	515	九州北部豪雨
25	38,400	502	192,800	97	515	
26	37,500	500	187,500	97	515	日照不足、ウンカ
27	35,600	500	178,000	97	515	日照不足、いもち病、台風15号
28	33,800	527	178,100	102	513	
29	33,300	527	175,500	102	513	
30	33,300	529	176,200	103	513	
令和 元	33,300	483	160,800	94	513	台風17号、ウンカ
2	33,300	470	156,500	89	513	7月豪雨、台風9・10号、ウンカ
3	32,300	484	156,300	97	513	
4	31,300	501	156,800	96	513	台風14号
5	30,000	518	155,400	104	513	